

『奥の細道』 出羽路編

元禄2年（1689）の晩春、
旧3月27日、松尾芭蕉は門人曾良をともない、
江戸深川の芭蕉庵から遠く奥羽行脚の長途の旅に出ました。
芭蕉翁46歳、曾良41歳、
最上町堺田から出羽の国に入り、
山刀伐峠を越え、
尾花沢に清風を訪ね、山寺・立石寺を一見、大石田、新庄を経て
本合海から最上川を舟で下り、清川に上陸しました。
羽黒山・月山・湯殿山の出羽三山を巡拝。
鶴岡、酒田を経て、象潟の蛸満寺を訪れ、
温海を最後に、鼠ヶ関から一路、
越後路へ向かいました。
40日余りの出羽路の旅を終え、
数々の名句と白眉の名文を残し、
今なお『奥の細道』を旅する人に、
さまざまな自然絵巻を語りかけてくれます。

